

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第1回 上越市博物館協議会

2 議題

歴史博物館事業報告

ア 開館4年目及び令和3年度事業の成果（公開）

イ 令和5年度事業計画〈案〉（非公開）

水族博物館事業報告

ア 開館4年目及び令和3年度事業の成果（公開）

イ 令和5年度事業計画〈案〉（非公開）

3 会議方法

文書資料の送付と意見書の提出による書面会議

※新型コロナウイルス対策のため

4 開催日時

令和4年9月9日（金）

※意見書の提出期限日を以て会議の成立とする

5 非公開の理由

イ・(2)イについては、「意思形成過程」を審議するため非公開としました。

6 意見書を提出した委員

歴史博物館部会：川村知行・斎藤良人・清沢聡・浅倉有子・増田小夜子

水族博物館部会：大山賢一・山下優子・関谷伸一・渡邊憲一・岩井文弘

7 意見書の内容

ア 開館4年目及び令和3年度事業の成果〈公開〉

【歴史博物館部会】

(川村部会長)

・「上越のみほとけ」展に関わることで、様々な問題を浮き彫りとする事になった。

照明が暗いとの批判があったが、企画展示室の照明設備自体が可変機能のない旧態依然であったことに尽きている。せめてスポットライトや補助照明機器があれば、と思うが、博物館・美術館が常備すべきものだけに残念だった。

・出品の大半が旧上越市以外のものだったことが興味深く、かつ意味深い。館が常々

標榜する「越後の都」を展示表現することは困難だが、垣間見るには、この種の展覧がもっとも効果的であることに気づけた。ロビーの頸城地図だけでは、けっして読み取ることはできない。来館者が「越後の都」を実感できる展示とは何だろうか？市外県内外の観客は元より市内の来館者でも同様に難しい。

- ・ほとんどが指定文化財のため、取り扱いに充分留意していることは感じられた。ただ、携わる学芸員は僅か二人だった。文化財を直接扱える数少ない機会なので、学芸員育成上、勿体なかった。
- ・文化財の管理・情報・把握は文化行政課の職務だが、市民にとっては博物館が窓口なので、連携と把握が急務と痛感した。まして 13 区は旧町村の管理と現上越市では管理の連続性に危惧があり、文化財台帳の再確認、現状の把握、調書の継続と問題が多く、課題は深刻である。これを機会に、議論を重ね有意義なものにすることを望みたい。

(清沢副部長)

- ・新型コロナウイルス感染症は、文化活動にも広範にわたる影響を及ぼした。その中で、上越市立歴史博物館はどのような対応を行ったかという評価は、当然のことながら他の機関と同様に行われると思う。「事業の成果」(報告)の文面にもその具体的な対応事例が記されているが、実際にはもっと多かったと推測する。なお、市民やそのほかの来館者の中から不平、不満、苦言などの声も寄せられたのではないだろうか。そういった声も、今後の対策の視点から紙面に加えても良いのではないか。
- ・送付資料の 12 ページ (2) 今後の課題の二番目の文章内容について、たいへん注目する。具体的な内容の説明を聞きたい。

(斎藤委員)

- ・令和 3 年度の事業は前年度に続いて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年に比し全体的に入館者数、展示室観覧者数が伸び悩んだことはやむを得ないものと考ええる。
- ・但し、その中で特別展「上越のみほとけ-「越後の都」の祈り-」は市内文化財の仏像・懸仏の優品を展示し、見ごたえのある内容で図録も評価できるものであった。
- ・一方で、日本スキー発祥記念館のスキー資料の整理・台帳化に 4 ヶ年計画で取り組んでいる。予算と時間のかかる事業であるが、歴史博物館の収集・保管機能としては重要な事業であるので、市当局の特段のご支援を継続していただきたい。

(浅倉委員)

- ・展覧会はいずれも大変充実したものと評価できると考える。そのうち令和3年度の「日本スキー発祥110年記念」と令和4年度の「森成麟造」展は、展示解説を聞いたが、解説付きで展示をみるとより理解が深まり、有効な手法だと思う。「御所参内・聚楽第行幸図屏風」は久しぶりに観たが、つくづく逸品である。
- ・岡沢拠点収蔵施設の公開も評判が良いようで何よりである。継続を願う。
- ・ICOM関連事業、こども向け解説会も誠に結構である。講演会も盛会で何よりだった。
- ・『スキー資料目録・研究』刊行が楽しみ。努力の賜物であり、大いに評価する。

(増田委員)

- ・逸品展示「御所参内・聚楽第行幸図屏風」について。展示照明の照度が低いように感じたが、屏風の制作年代、資料保護の点から考えると適切かと思われる。ただ右隻左隻の配置については、展示ケースの位置やサイズなどを考慮した結果と思われるが、両者をもう少し近づけてもらえれば情景が繋がり、左右から行列が進んでいく一雙としてのダイナミックな全体像を鑑賞できたと感じる。
- ・「森成麟造」展は、郷土に足跡を残した人を掘り起こし紹介する企画である。1室では漱石との関わりを軸にした生い立ちや人物像、2室では考古学者としての業績とし、見やすく展示されていたと思う。解説会に参加したが、丁寧で分かりやすい解説で、できるだけ多くの情報を届けようという意欲が伝わった。ただし、解説時間に制限があることを考えると、時間をかけるところとコーナーの紹介に留めるところのメリハリをつけることも必要ではないかと感じた。また一部はカタログで解説されているが遺物の名称、読み方、用途など、基本的な情報がパネルや印刷物で提供されていたら、より分かりやすいのではないかと思う。考古学についてあまり知識がないため。
- ・「日本スキーの黎明」について、個人的にはスキーを紹介指導したレルヒ少佐よりも、それをきっかけに日本にスキーが普及していく歴史や道具の変遷に興味があり、楽しみにしている。これも個人的な話で、記憶違いかもしれないが、小学校の時はグラウンドに雪を積み上げて小山を築き、スキーをしていたし、「キネンホーダイ」でスキーをした記憶もある。たぶん「記念砲台」であり、師団時代の施設跡と思われるが、それがどこなのか、何かと混同しているのか全く見当がつかない。学芸員に伺いたい。このように上越市民なら、スキーに関する道具や遊び方など多

くの思い出があるはず。会期中にアンケートを実施したら、興味深い情報が出てくるのではないか。

【水族博物館部会】

(関谷部会長)

- ・コロナ感染がなかなか収束しない状況のなかで、様々な工夫をしながらの事業継続の努力に対し敬意を表す。入館者数が激減したとはいえ、コロナ感染のリスクをおかしてまで水族館に足を運んでくれる多くの人々がいるということは、水族館の魅力がそれなりに大きいものである証拠と思う。わずかではあっても入館者数の上向き増は喜ばしいことと思った。
- ・「入館者動向」でアンケート結果が集約されているが、アンケート回答者の実数を知りたい。また入館者からの要望や意見などはなかったのか、またあったならば館としてどのように対応したのかも知りたい。また今以上に入館者の意見をより積極的に引出し、耳を傾け、取り入れていく方策を考えていただければと思う。

(渡邊副部会長)

- ・館内滞留者数の設定や入館予約システムの運用など様々なコロナ対策を講じながらの運営には大変な苦労があったと思われる。令和4年度4月から6月の入館者数は、令和3年度の同時期を31,597人上回っており、コロナ禍における明るい兆しになればと願っている。今後とも、十分なコロナ対策の下、入館者数の増大に尽力頂きたい。
- ・調査研究に関して、論文等があれば希望する委員に配布いただければ有難い。

(大山委員)

- ・日頃から、いろいろなことにチャレンジしていること、直江津地区を中心に地域とともに連携・協同して、素晴らしい成果をあげていることに、心より感謝と敬意を表します。櫻館長をはじめ職員の皆様のご尽力に、これからもエールを送っていきたいと思う。健康第一である。ライフワークバランスを取りつつ、楽しみながら「scrap and buildで、常に一步前へ」とお仕事を続けていただきたいと願っている。
- ・この一年間の柱となる目標(重点目標、営業目標など、表現はいろいろあってよい)は何だったのか。その目標を達成できたのか。全体を総括するとよいでしょう。年度当初の事業計画などに示しておいた様々な取組について、「成功した」「実施し

た」「展示した」などと示されていたが、入館者アンケートにある「どこに満足したか」「要望や改善点」なども含め、水族博物館がよりよくなったのか、新たな課題が見えたかなどについて示し、次年度の事業改善に取り組みたい。

- ・資料やHPなどから、令和3～4年度では、「マンスリー水槽」や「大人のおひとりさま水族館」、「入館者の質問に答える」、「ツイッターに随時情報を発信」、「なおえつうみまちアートとのコラボ」など、様々な工夫が見られ、取組の質の向上がよくわかった。少ない職員なので、仕事の軽減も大切である。職員の意見も大切にし、ゆとりと充実のある経営をしてほしい。
- ・人気のイルカ、ペンギン、アザラシは目立つが、他にもたくさんの生き物がいる。これらにも光を当てるようにしたい。活字の情報は見ずに素通りしがちである。手書きで端的に発信する掲示や入館者の感動を一言書いてもらう小さなホワイトボードなどを設置してみるとよいのではないか。
- ・「うみがたりカレッジ」では、必修科目や選択科目があり、必要以上の参加をした人に卒業証書あるいは学位をあげると、年間パスポートがお得で試験がないので、参加する人が増えると考え。さらに、卒業後は、「うみがたり友の会」に入って、水族館のサポートや自らの展示や企画などで、楽しみながらずっとつきあっていたけるとよい。
- ・職員を育てる上で、調査研究では、論文でなくてもよいので、A4判2～4頁で査読なし（ほかの職員が誤字脱字の確認を行う）の短報をHPに掲載してはどうか。機会があれば、学会等で口頭発表するとよい。
- ・情報発信は、とてもよく頑張っている。CMだけでなく9月7日にUXにできるように、特別展や企画展など行ってみたくなる展示情報を年度当初（少なくとも半年前）に大手各TV局に通知し、旅番組や科学番組などに取り上げてもらえるようお願いするとよい。

(山下委員)

- ・コロナ感染症が収束せず、対応状況が変化中、館運営を調整しつつ各種の取組を進めてきている。「リモートバックヤードツアー」・「エコもっと」と、新規教育プログラム実現の労も評価したい。
- ・令和3から令和4へと年度を追ってマゼランペンギンの繁殖数が増え、育雛ライブ配信や公開体重測定・給餌など、関心や愛着度を高める取組みがなされていてよい。観察ポイントや生態クイズ提示など更なる工夫を。

- ・上越地域捕獲生物の展示、「おかえりサーモン」、「うみまちアート」の実施と、地域連携が継続、定着し、地域と共にある私たちの『うみがたり』が推進されている。特にうみがたりカレッジ出張講座「サケ…」は、好プログラム。『見て 聞いて 触れて 体験して』→学びを深める場を提供できたことに意義あり。今後もタイムリーな出前プログラムを実現し、『うみがたり』をアピールしつつ、地域貢献を。
- ・コロナ禍対応を契機に、早朝や夜間、年パス限定などの活動が登場し、注目している。(2月末の夜間は季節的にどうか??)参加者の反響が不明だが、間口を広げる活動として、好評度を高めて欲しい。
※報告として、多くの実施内容や数値が記載されているが、反響や状況、館としての受け止めが示されていない。成果や課題を総括し、明記することを求めたい。次への目標見定め・戦略・展開に必須である。

(岩井委員)

- ・各種展示、特別展、企画展での困難、また社会教育プログラムの相次ぐ休止は仕方のないことと思う。長期の休館なしで運営できたことはまずまずの成果だと思う。
- ・特別展で桑取川・名立川のサケの生態展示は大変良かったと思う。地域の海中生物の生態を知ることは有意義ではないか。
- ・令和4年度(4～6月)の入館者数は令和3年度のその数より大幅に増加している。コロナ感染症に対する警戒感が幾分和らいだためだと思われる。しかし、油断は禁物です。少なくとも水族館の職員から感染者を出してはいけない。それが入館者増の妨げになる。
- ・イルカプール、ふれんどプールの日除け設置は効果的だったと思われる。鯨類の死亡の原因は「環境不適應からのストレス」だけだに、環境改善は不可欠である。今後も改善の努力を願う。

イ 令和5年度の事業計画〈案〉について(非公開)

8 会議のまとめ

- ・意見集約の結果、両館の事業報告及び次年度事業計画について、了解を得られたものと考えます。委員の要望・疑義については個別に回答するものとします。

9 問合せ先

教育総務課 TEL : 025 - 545 - 9243
E-mail : ks-kikaku@city.joetsu.lg.jp

歴史博物館 TEL : 025 - 524 - 3120
E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。